

### 3 障害児通所支援における定員超過利用減算について

障がい福祉課  
令和4年度  
集団指導

#### ①会計検査院検査による指摘事項

- ・定員を超えてサービス提供を行っている事業所がある。
- ・定員超過利用減算の制度理解が不十分である。
- ・定員超過利用減算が適切に算定されていない。

#### ②対策

- ・定員超過利用減算の適用の要件に関する周知
- ・障害児通所支援事業所における定員超過利用減算対象確認シートでの確認

### 3 障害児通所支援における定員超過利用減算について

障がい福祉課  
令和4年度  
集団指導

#### ③定員超過について

##### 【基本原則】

- ・指定基準において、利用定員及び指導訓練室の定員を超えて、児童発達支援、医療型児童発達支援又は放課後等デイサービスの提供を行ってはならない。

##### 【やむを得ない事情がある場合の取扱い】

- ・災害、虐待その他のやむを得ない事情（以下「やむを得ない事情」という。）がある場合は、この限りではない。

##### 令和3年度障害福祉サービス等報酬改定等に関するQ&A VOL.4（令和3年5月7日）

問 28 定員超過は、指定基準において「災害、虐待その他のやむを得ない事情がある場合」に可能としているが、以下のような理由も「やむを得ない事情」として認められるのか。また、「やむを得ない事情」については、これらの理由のほか、各都道府県等において個別の事情ごとに判断して差し支えないと考えてよいのか。

ア 障害の特性や病状等のため欠席しがちで、定期的な利用を見込むことが難しい障害児に継続した支援を行う必要がある場合。

イ 障害児の家庭の状況や、地域資源の状況等から、当該事業所での受け入れをしないと、障害児の福祉を損ねることとなる場合。

（答）

いずれの場合も、「やむを得ない事情」があるものとして差し支えない。また、都道府県等において個別の事情ごとに判断する取扱いも貴見のとおりである。

アのようなケースについては、利用人数が恒常的に利用定員を超えている状態でなければ、速やかに是正を図る必要はない。

イのようなケースについては、既存の利用者が利用をやめる際に、利用人数の調整を行うなどの方法で是正を図れば足りるものとする。

※利用人数が恒常的に利用定員を超えている状態とは、1月における利用児童数（やむを得ない事情がある障害児の数は除く）の合計人数が、利用定員に開所日数を乗じて得た数を超えるかどうかで判断。

### 3 障害児通所支援における定員超過利用減算について

障がい福祉課  
令和4年度  
集団指導

#### ④定員超過利用減算について

(1) 1日当たりの利用実績による定員超過利用減算の取扱い

##### ① 利用定員 50 人以下の場合

1日の障害児の数(複数のサービス提供単位が設置されている場合にあっては、当該サービス提供単位ごとの障害児の数をいう。以下同じ。)が、利用定員(複数のサービス提供単位が設置されている場合にあっては、当該サービス提供単位ごとの利用定員をいう。以下同じ。)に100分の150を乗じて得た数を超える場合に、当該1日について障害児全員につき減算を行うものとする。

(例1) 定員 10 人の場合・・・ $10 \text{ 人} \times 1.5 = 15 \text{ 人}$

- ・ 1日の障害児の数が 15 人 : 定員超過利用減算とならない。
- ・ 1日の障害児の数が 16 人 : 定員超過利用減算となる。

(例2) 定員5人の場合・・・ $5 \text{ 人} \times 1.5 = 7.5 \text{ 人} \rightarrow 8 \text{ 人}$  (小数点以下切り上げ)

- ・ 1日の障害児の数が8人 : 定員超過利用減算とならない。
- ・ 1日の障害児の数が9人 : 定員超過利用減算となる。

##### ② 利用定員 51 人以上の場合

・・・説明省略・・・

### 3 障害児通所支援における定員超過利用減算について

障がい福祉課  
令和4年度  
集団指導

#### ④定員超過利用減算について

(2) 過去3月間の利用実績による定員超過利用減算の取扱

##### ①利用定員 12 人以上の場合

直近の過去3月間の障害児の延べ数が、利用定員に開所日数を乗じて得た数に100分の125を乗じて得た数を超える場合に、当該1月間について障害児全員につき減算を行うものとする。なお、開所日は暦日ではない点に留意する。

(例) 利用定員 30 人、1月の開所日数が 22 日の場合

・  $30 \text{ 人} \times 22 \text{ 日} \times 3 \text{ 月} = 1,980 \text{ 人}$

・  $1,980 \text{ 人} \times 1.25 = 2,475 \text{ 人}$  (受入可能延べ障害児)

⇒ 3月間の総延べ障害児数が 2,475 人を超える場合に減算となる。

##### ②利用定員 11 人以下の場合

直近の過去3月間の利用者の延べ数が、利用定員に3を加えて得た数に開所日数を乗じて得た数を超える場合に減算を行うものとする。

(例) 利用定員 10 人、1月の開所日数が 22 日の場合

・  $(10 \text{ 人} + 3) \times 22 \text{ 日} \times 3 \text{ 月} = 858 \text{ 人}$  (受入可能延べ障害児)

⇒ 3月間の総延べ障害児数が 858 人を超える場合に減算となる。

### 3 障害児通所支援における定員超過利用減算について

障がい福祉課  
令和4年度  
集団指導

#### ④定員超過利用減算について

##### (3) 多機能型事業所等における定員超過利用減算の取扱い

多機能型事業所における1日当たりの利用実績による定員超過利用減算及び過去3月間の利用実績による定員超過利用減算については、(1)及び(2)と同様とする。  
ただし、当該多機能型事業所が行う複数のサービスごとに利用定員を定めている場合にあっては、当該サービスごとに、当該利用定員を超える受入れ可能人数を算出するものとする。

(例1) 利用定員 30 人の多機能型事業所(児童発達支援の利用定員 10 人、生活介護の利用定員 20 人)の場合の1日当たりの利用実績による定員超過利用減算

- 児童発達支援・・・10 人×1.5=15 人
  - ・ 1日の障害児の数が 15 人：定員超過利用減算とならない。
  - ・ 1日の障害児の数が 16 人：定員超過利用減算となる。(児童発達支援のみ)
- 生活介護・・・20 人×1.5=30 人
  - ・ 1日の障害者の数が 30 人：定員超過利用減算とならない。
  - ・ 1日の障害者の数が 31 人：定員超過利用減算となる。(生活介護のみ)

(例2) 利用定員 30 人、1月の開所日数が 22 日の多機能型事業所(児童発達支援の利用定員 10 人、生活介護の利用定員 20 人)の場合の過去3月間の利用実績による定員超過利用減算

- 児童発達支援
  - ・ 10 人×22 日×3月=660 人
  - ・ 660 人×125%=825 人(受入可能延べ障害児数)
  - ⇒ 3月間の総延べ障害児数が 825 人を超える場合、児童発達支援は減算となる。
- 生活介護
  - ・ 20 人×22 日×3月=1,320 人
  - ・ 1,320 人×125%=1,650 人(受入可能延べ障害者数)
  - ⇒ 3月間の総延べ障害者数が 1,650 人を超える場合、生活介護は減算となる。

### 3 障害児通所支援における定員超過利用減算について

障がい福祉課  
令和4年度  
集団指導

#### ④定員超過利用減算について

(4) やむを得ない事由により障害児の数から除外するときの取扱い

(1) から(3)における障害児の数の算定に当たり、災害等やむを得ない事由により受け入れる障害児は除くことができるものとする。

なお、2の(2)に記載したQ&Aにおける「障害の特性や病状等のため欠席しがちで、定期的な利用を見込むことが難しい障害児」は、この取扱いの対象とはならない点に留意されたい(欠席しがちであっても、利用をする場合は障害児の数として計上する)。

※(1)～(4)の計算の過程において、小数点以下の端数が生じる場合については小数点以下を切り上げるものとする。

(5) 定員超過利用の前提となる適正なサービス提供について

定員超過利用を可能とする前提となる「適正なサービスの提供」について、具体的な取扱いは以下のとおりとしている点に留意すること。

なお、人員基準等を満たしている場合でも、(1)又は(2)の範囲を超える定員超過利用については、定員超過利用減算を行う必要がある点にも留意すること。

令和3年度障害福祉サービス等報酬改定等に関するQ&A VOL.4(令和3年5月7日)

問 26 報酬告示の留意事項通知において、「利用定員を上回る障害児を利用させているいわゆる定員超過利用について、原則、次の範囲の定員超過利用については、適正なサービスが確保されることを前提に可能とする」とあるが、適正なサービスが確保されているかどうかはどのように考えるのか。

実際の利用人数に応じた人員基準や設備基準を満たしていること(例:利用人数が12人場合、児童指導員又は保育士を3人配置すること)を想定している。

なお、災害の直後に必要な児童指導員等の確保ができない場合等合理的な理由が認められる場合は、利用定員に応じた人員基準(例:利用定員10人の場合で12人利用するときに、児童指導員又は保育士を2人配置)のまま定員超過することもやむを得ないものとする。



### 3 障害児通所支援における定員超過利用減算について

障がい福祉課  
令和4年度  
集団指導

#### ⑤障害児通所支援事業所における定員超過利用減算対象確認シート

- ・③の定員超過に該当する場合は、下記シートを用いて確認し、必要に応じて定員超過利用減算を適用すること。
- ・平成28年度に遡って確認を行うこと。

障害児通所支援事業所における定員超過利用減算対象確認シート														令和 <input type="text"/> 年度分		
<p>● 定員超過利用減算は過去3ヶ月分の利用状況により算出するため、定員超過が生じた場合、当該月の前後2ヶ月についても利用者数等を入力すること。</p> <p>※ 例えば、4月に定員超過が生じたときは、2月、3月、5月、6月にも入力が必要。前年度の2月に定員超過が生じたときは、1月、3月、4月にも入力が必要（欄が無い前年度12月以前は記入不要）。</p> <p>※ 本シートを作成する「定員超過が生じた場合」は、1日でも利用定員を超過した日があるときも含み、また、災害等やむを得ない事由により定員超過となっている場合も含めるものとする。</p> <p>● 本様式により定員超過利用減算の算定が必要と確認した月であっても、当該月のうち、1日に利用定員の150%を超えるなど一定の範囲を超えて障害児を受け入れた日がある場合には、当該日について定員超過利用減算の算定が必要となる点に留意すること。</p>																
事業所名														青色のセルに入力をしてください。 (色のないセルは自動入力です。)		
提供サービス名																
提供単位(単位分けを行っている場合のみ記入)																
★ 数字の入力方法や、⑤に表示される用語の意味については、「記載例・表示内容の説明」のシートもご確認ください。																
		前年度			令和 <input type="text"/> 年度											
		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
①	延べ利用者数(人) (注1)															
②	過去3ヶ月間の延べ利用者数(人)				0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
③	利用定員(人)															
④	開所日数(日)															
⑤	利用定員×開所日数 (③×④)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
⑥	受入可能延べ利用者数(人) (注2)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
⑦	過去3ヶ月間の受入可能延べ利用者数の合計数(人)				0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
⑧	定員超過利用減算の算定の要否 (⑦>⑥=減算必要)				error	error	error	error	error	error	error	error	error	error	error	error
<p>(注1)災害等やむを得ない事由により受け入れる障害児は、①の人数から除くことができる。ただし、「障害の特性や病状等のため欠席しがちで、定時的な利用を見込むことが難しい障害児」は、この取扱いの対象とはならない点に留意されたい(欠席しがちであっても、利用をする場合は障害児の数として計上する)。</p> <p>(注2)利用定員が12人以上の場合:「⑤×(125/100)」、11人以下の場合:「(⑤+3)×③」</p>																